



音浴博物館



西 海市大瀬戸町の森の中にある音浴博物館。ここには約十六万枚のレコードをはじめ、蓄音機や年代物のスピーカーなどが所狭しと展示されている。



館長の中村昌彦さん

館長の中村昌彦さんが博物館の宝物だと紹介してくれたのは、エジソンが発明したという蝸管蓄音機。「こちらの蓄音機は一九〇三年製です。この青い円筒がレコードなんです。ちょっと聴いてみましょうか」。ラッパ型のホーンから聴こえてくる音楽は温もりにあふれ、一瞬にしてその時代へと誘ってくれる。約百二十年前の機械が現役で動き、音を奏でてくれるとは感激だ。しかしレコードは聴くたびに擦り切れてしまうもの。こんなに貴重なものを聴かせていただけて良いのだら

うか？ この疑問に、中村さんは「当館の創始者である故・栗原栄一朗さんの考えが、レコードは見て飾るものではなく、聴いて体感するものが大切というものでした。ですから各所に準備しているレコードプレーヤーで、館内にあるほぼ全てのレコードを自由にお聴きいただけます」と微笑んだ。

館内は手回しの蓄音機や昭和のレトロな雑誌や生活道具が並んだ「蓄音機の館」、邦楽や洋楽、クラシックなどのレコードが天井の高さまで並んだ「LPホール」など、見どころ満載。中村さんは、それぞれのコーナーを丁寧に案内してくださった。そのガイドぶりは見事で、レコードや蓄音機の歴史にとどまらず、往年のミュージシャンの知られざるエピソードなどが盛り込まれ、聞く者を夢中にさせる。最後に案内していただいた

イベントホールには、昭和二十年代から現代までの機器やスピーカーがずらり。「これが当館のスペシャリティーです」と紹介されたスピーカーは、なんとあのエルビス・プレスリーも使ったものと同型。スピーカーから流れてくる音楽は、心臓にダイレクトに響く。心は音楽に包まれ、ここが「音を浴びる場所」であることを実感する。中村さんは「こうして当時の機械やスピーカーで当時の音楽を聴くというのは、音楽以上のものを聴いている感じがしますね」と嬉しそうに話す。

スピーカーの奥深さを教えてくれた中村さん。

廊下では随時、企画展示が行われている。

建物は廃校となった小学校の分校を活用したものだ。



円筒のレコード(左上)／エジソンが発明したという蝸管蓄音機(右上)



心地よい音楽に
時を忘れる
ワンダーランド

